

「障害者スポーツ」から競技スポーツへ —「クラス分け制度」の必要性と問題点—の研究

From “Adapted sports” to competitive sports
A study of the necessity and problems in the “classification system”

1K04A0031-3

臼井 陽亮

指導教員

主査 石井昌幸先生

副査 寒川恒夫先生

はじめに

1960年にパラリンピックが開催されて以来、「障害者」は、急速に社会的な認知度を高め、関心を集めている。障害者スポーツには、一般のスポーツとは異なる大きな特色として、「クラス分け制度」というものが存在する。「障害者」といっても、程度によって違いがあるからだ。これは障害者にとっての画期的なシステムなのである。そして、彼らの参加するスポーツが「障害者スポーツ」という名称で一括されている。

第一章 「障害者スポーツ」とはなにか

1. 「障害」とはなにか

「障害」とは疾病や損傷の結果、もたらされた状態（永続性、固定性、非可逆性のもの）であるといえる。

2. 「障害者スポーツ」とはなにか

障害のためにできにくいことがあるだけという理念のもとに、「何ができないか」ではなく、「何ができるか」に視点を向けて、用具やルールを工夫しながら行われているものを、「障害者のスポーツ」と我々は呼んでいる。

第二章 パラリンピック

1. パラリンピック

パラリンピックは 1960 年に、英国以外での場所で最初に行われた国際ストークマンデビル競技会の開催地、ローマでの大会が第一回のパラリンピックであるといわれた。

2. パラリンピックの目的

その目的はあくまでも障害者のリハビリテーションや社会復帰であり、「参加すること」が第一である。だが、1989年にトップレベルの競技を競うための国際的な代表組織になることを目指して、国際パラリンピック委員会が世界で設立されてから、目的はリハビリや社会復帰といった考えから、相手を打ち負かし勝つことへと変わった。

3. パラリンピックにおける「クラス分け制度」

メダル数の多さから競技のクラスをできるだけ少なくする考えが生じた。障害は異なっても、同等の機能を持っていると考えられる者でひとつのクラスとする「統合的クラス」という考えだ。しかし、1980年代になると「機能的クラス分け」という考えが始まってきた。これは競技する選手の障害に焦点をおくのではなく、選手の競技における運動機能に着目してクラス分けするという考えである。

第三章 車椅子スポーツの現状

1. 車椅子

車椅子とは、身体の機能障害により歩行困難となった者が利用する移動手段、福祉用具である。

2. 車椅子バスケットボールの誕生

米国では障害者が自らの手で車椅子バスケットを普及発展させた。一方、英国ではストークマンデビル病院のグットマン博士により脊髄損傷者の治療法として車椅子ポロやネットボールが導入された。2つの流れは1950年代後半にひとつとなり、車椅子バスケットは競技スポーツとして世界中で盛んになった。

3. 車椅子ラグビー

車椅子ラグビーとは、四肢麻痺のある車椅子使用者を対象とする競技であり、1996年のアトランタパラリンピックでデモンストレーション競技として初登場し、2000年シドニーパラリンピックから公式種目として扱われた。

第四章 健康スポーツから競技スポーツへ

1. 競争とは

人は、生き残る為に、また種族を残す為に互いに競争をしている。それを現在では、スポーツを媒介として競争をおこない、結局、争うことの本質は変わらない

2. プロフェッショナルの出現

シドニー大会より、ドーピング・コントロールといった競技性を追及する新たな時代が登場した。しかし、パラリンピックとは障害者の参加する競技会であり、薬物を使用しなければならないケースもある。今後は、より多くの障害者が、ドーピングと誤ってみなされる心配なく参加し、競技に集中できるように、障害に対する治療の為に薬物使用と、ドーピング目的の使用とを区別できるような規定を設けなければならない。

おわりに

障害者スポーツでのクラス分けという制度は競技を多くの人に平等に参加する機会を与えるという点で必要なものである。しかし、問題としては、過去の経験や色々な考えから生み出された、統合的クラス分けという制度の「統合」という文字に惹かれ、パラリンピックの参加種目のイベント、つまり障害別に用意されている種目を安易に省略し、減らしてはならないということである。